

教科等研究会（中学校英語部会）令和6年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

主体的に自分の考えや思いを英語で表現できる生徒の育成を目指して
～バックワードデザインによる授業作りをとおして～

2 研究経過

第1回	第2回	第3回	第4回
期日 6月7日（月） 人数 21人 場所 益城中学校	期日 8月5日（金） 人数 21人 場所 益城中学校	期日 10月1日（火） 場所 益城中学校 授業者 山本美和教諭	期日 1月23日（木） 場所 御船中学校 授業者 森山奈美教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

【研究組織】

部長（永田 功臣 【矢部中】） 理事長（佐藤 貴文 【益城中】）

- ・1年部会 部長：（富永 裕喜）【木山中】、副部長：（中山 晶貴）【御船中】

大倉 典子	益城中	正代イザヤ	蘇陽中	尾鷹穂乃香	矢部中
山本 美和	益城中	杉森 章英	嘉島中		

- ・2年部会 部長：（田上 裕登）【嘉島中】、副部長：（北里 美鈴）【甲佐中】

森山 奈美	御船中	田川 容子	益城中	後藤 博美	矢部中
佐藤 貴文	益城中	吉田 元夫	清和中		

- ・3年部会 部長：（岩谷 早希）【益城中】、副部長：（溜池 和孝）【益城中】

植原 光恵	御船中	久米 直子	甲佐中	末竹 美歩	嘉島中
桂 めぐみ	木山中				

【研究テーマ】

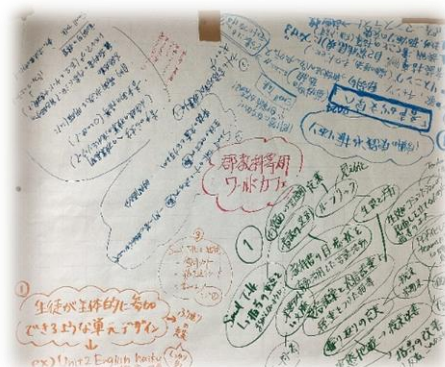
今年度は「主体的に自分の考えや思いを英語で表現できる生徒の育成を目指して ～バックワードデザインによる授業作りをとおして～」という研究テーマのもと、研究、実践、授業改善等を行った。

① 第1回教科等研究会

組織づくりを行い、学年部会で組織を構成した。研究活動を分担し、「2学期研究授業」「3学期研究授業」「県版テスト作成委員」の3グループに学校別に分け、担当を確認した。今年度は評価問題の工夫にも重点を置き、定期テストの問題の出し方についても工夫を行うことで確認した。

② 第2回教科等研究会

午前中は1学期の実践や振り返りをワールドカフェ形式で行い、①バックワードデザインについて特に1学期に意識して実践した内容や、②普段の授業における悩みの共有、③評価問題の工夫、の3つについて、意見を交換した。その後、各学年部会に分かれ、2学期以降に実施される授業研究会の指導案検討や、共通テスト対策問題の作



ワールドカフェの内容

成を行った。

午後は小学校との合同研修の形をとり、熊本県立教育センター指導主事の栗原佳代先生をお招きして、学力向上と小中連携の観点で講話をいただいた。また、各町の中学校区単位で意見交換を行ったり、それぞれの実践を紹介したりした。町によっては担当が初めて顔を合わせる場所もあり、有意義な時間になった。

③ 第3回教科等研究会

益城中学校で実施された。前置詞や動名詞を理解し、ALTに日本の中学生がどのような夏休みを過ごすのかを知ってもらえるように、クラスメイトと練習をする中で、自分のスピーチの内容をより良く工夫し、自分の夏休みについて感想を交えて、意欲的にALTに伝えていった。益城町の取組として、小中学校で共通した動詞句チャンツを取り組んでおり、そこで身に付けた動詞句を用いて発展的な学習を行った。詳しくは4の実践事例に記す。



④ 第4回教科等研究会

御船中学校で実施された。比較表現を用いた文の形・意味・用法を理解し、複数のものを比べて結果を伝え合ったり、新1年生に向けて、御船中学校生徒の日常や好みなど、身近なトピックについての調査結果を、相手にわかりやすい表現や図やグラフなどを用いて表現したりすることを目標として、授業を行った。

(2) 成果と課題

- 研究授業が行われ、その後の授業研究会は互いに共有ができ、情報交換ができる貴重な場になった。
- 夏季休業日中に行われた研修で使用した「ワールドカフェ」は、その後の授業改善に大変役に立った。
- 「音声から文字へ」の授業展開を意識して取り組んだ。聞き取りや話すことに関して、自信を持って取り組む生徒が増え、町の取組として、小学校の外国語担当の先生方が中学校の英語の授業を参観される機会も増え、成長した姿を見せることができた。
- ミニグループでの教え合い活動やスモールティーチャーの活用について取り組み、わからないことや困ったときに自ら助けを求めるなど学習への意欲が上がった。
- キーワードに的を絞らせた **Active Listening** や、空欄箇所を聞き取らせて書かせる **Active Listening**、ペアでの学び合いを促すペアトーク、その時間に学んだことを確認する振り返りなどに意識して取り組んだ。
- 出勤の際に車の中で教科書本文を繰り返し聞き、自分自身の英語力を向上させた。
- 単元計画を単元ごとに作成し、生徒が見通しを持って学習に取り組んだことで、生徒が目的意識を持って学習に取り組んでいたように感じる。
- 各単元でパフォーマンステストを実施した。1年生はスピーキングテストを重点的に取り組んだが、英検3級の2次試験を意識した内容で行った。生徒は緊張感を持って取り組むことができ、「もっと上手に話したい」「もっと話せるようになりたい」と思う生徒がテストをするごとに生徒の意欲が高まってきている。
- バックワードデザインの策定について、「このプログラムが終わった時には英語でこんなことができるようになる」という明確なものをもって、毎時間の授業展開を意識するように実践を行うことができた。
- 「小中連携」について、今年度も小学校外国語活動部会との合同夏季研修会が実施できた。来年度も小中合同の研修を行いたい。
- 小中連携については、町単位や中学校区単位で実施に温度差が見られ、改善が待たれる。

4 実践事例

(1) 授業の概要

～自評・研究討議の内容・まとめ～

- ・本時の目標において、ALTの動画を流すことで目的・場面・状況がはっきりしていた。
- ・益城町の取組として、動詞句チャンツを統一して練習しており、過去形の導入に役に立っていた。
- ・英作文のパターンを与えず、生徒が言いたいことに焦点を当てていたのも良かった。動詞句チャンツを統一して行っているからできることと思う。
- ・リテリングが自分のスピーチを作る前の良いつなぎになっている。
- ・ICT機器をうまく活用し、ロイロノートに録音をすることで、生徒がそのユニットで徐々に成長しているのが目に見えるのでいいと思う。
- ・中間指導での、質問に対してのやりとりや解答はとても効果的だった。
- ・多くの生徒がカードだけで英文を作っていたので、日頃からの取組が垣間見えるものでした。
- ・レコーディングを教室で生徒に一斉にしたので、騒音が入っていてうまく聞き取れなかった。
- ・レコーディングを家庭学習で行うことでより効率的に授業が進むのではないかと思った。家庭学習の充実にもつながると思う。
- ・集中力や意欲に差のある生徒への手立てを考えることも必要であると思った。
- ・うまく表現できないものもたくさん出ていた。
- ・クラスルームイングリッシュが十分に活用されていた。
- ・指示が的確で分かりやすかった。
- ・指名された時に、すぐに反応して発表ができていた。



(2) 学習構想案

①第3回教科等研究会における本時の目標

ALTのことをもっと知るために、JTEにALTのことについて質問することができる。

②展開

(1) 目標 メグのスピーチを参考に、自分の夏休みの体験について話すことができる

(2) 展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意事項
導入	7分	1 Understanding Goal ・単元の目標と本時のめあての確認	○ALTのスピーチ動画を見て、単元のゴールを再確認する。 ○単元のゴールと本時のめあてのつながりを意識させる。
		2 Warming Up ・過去形の動詞の練習(全体、ペア)	
【めあて】自分の夏休みの体験についてまとまりのある英文で話すことができる			
展開	3分 8分	3 Retelling ①セルフトーク ②ペアトーク	○Retellingをすることで、Activityの自己表現につなげる。 ○机間支援を行い、生徒がつまづいている部分の確認を全体で行う。

		<p>4 Activity</p> <p>(1) メグのスピーチを参考に、自分の夏休みの体験を話す。</p> <p>①セルフトーク ②ペアトーク ③中間指導 ④ペアトーク ⑤中間指導 ⑥セルフトーク ⑦グループトーク</p> <p>(2) 録音して提出</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【期待される学びの姿】 分からないところを先生や友達に質問したり、教え合ったりして、よりよいスピーチをしようとする姿。</p> </div>	<p>○手本になるスピーチができて いる生徒の表現を取り上げ、参 考になるようにする。</p> <p>○中間指導でより多くの疑問を 引き出し、全体で共有する。</p> <p>○録音することで自分のスピー チの改善点に気付くことがで きるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【具体の評価規準】「話すこと」 (発表)</p> <p>【知】(観察・録音)</p> <p>○メグのスピーチや友達のスピー チを参考に、自分の夏休みの 体験を感想を交えて話す技能 を身に付けている。</p> </div> <p>【到達していない生徒への手立 て】</p> <p>○中間指導やペアトークを取り 入れることで、ペア同士の教え 合いを行う。</p> <p>○セルフトークやペアトークの 際に机間支援を行う。</p>
<p>終 末</p>	<p>5 分</p>	<p>5 学習のまとめ、振り返り、次時の確認</p> <p>①めあてに対するのまとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の体験を話す時は（動詞の過去形）を使う。 ・（感想）を加えるとより詳しい表現ができる。 </div> <p>②振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートにめあての達成状況や学んだことなどを書く ・課題の指示 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題として、本時の授業で話したことを、ノートに書いてくることを指示する。